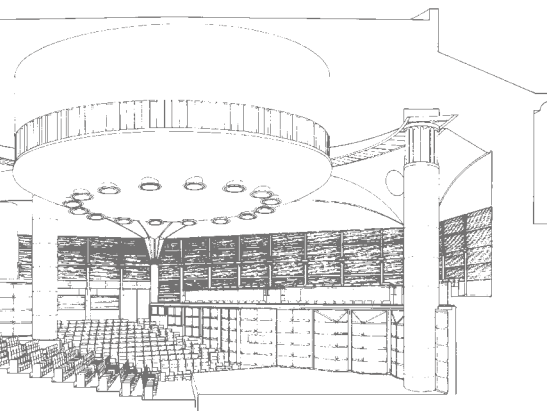


MCO



Mito Chamber
Orchestra
The 107th Regular
Concert

水戸室内管弦楽団 第107回定期演奏会



CONCERT HALL ATM

A D A S T R I A

— *Play fashion!*

GLOBAL WORK niko and ... LOWRYS FARM studio CLIP

LEPSIM JEANASIS RAGEBLUE Heather

BAYFLOW HARE apart by lowrYS repipi armario

Andemiu LAKOLE M&X bijorie CALEIDO@BICE

PAGEBOY mysty woman Elura BABYLONE LE FOYER

BARNYARDSTORM Erik Chaos Curenology PAS TIERRA

《お客様へのお願い》



新型コロナウイルス感染症拡大防止に関して

- 館内ではマスクのご着用をお願いいたします。
- まわりの方とは距離をおとりください。
- 手洗いと手指の消毒にご協力ください。
- クロークのご利用は当面の間、中止させていただきます。
- 「いばらきアマビエちゃん」へのご登録を、
右のQRコードからお願いいたします。



コンサートホールでは携帯電話の電源をお切りください。
コンサートホールでの写真の撮影・録音・録画はご遠慮ください。
鈴や紙袋、時計のアラーム等は、音が出ませんようにお気をつけください。

●大地震発生の場合の避難方法につきまして

コンサートホールは基本的に安全です。万が一、公演中に大地震が発生した場合、揺れが収まるまで客席内で待機してください。
地震が収まりましたら、係員が誘導いたしますので、それまでお席でお待ちください。



水戸室内管弦楽団
第107回定期演奏会
Mito Chamber Orchestra
The 107th Regular Concert

2021年6月5日(土)15:00開演

6月6日(日)15:00開演

会場：水戸芸術館コンサートホールATM

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協賛：株式会社アダストリア

水戸証券株式会社



公益財団法人 げんでん ふれあい茨城財団

株式会社吉田石油

水戸京成ホテル

協力：全日本空輸株式会社

後援：茨城新聞社、水戸商工会議所

助成： 文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会

プログラム

Program

エルガー：序奏とアレグロ 作品47

Elgar: Introduction and Allegro, Op.47

弦楽四重奏：竹澤恭子、豊嶋泰嗣、川本嘉子、原田禎夫

Quartet: Kyoko Takezawa, Yasushi Toyoshima,
Yoshiko Kawamoto, Sadao Harada

ボイエルドュー：ハープ協奏曲 ハ長調 作品77

Boieldieu: Harp Concerto in C major Op.77

ハープ独奏：吉野直子

Harp: Naoko Yoshino

— 休憩 Intermission —

マーラー：アダージェット

(交響曲 第5番 嬰ハ短調 より 第4楽章)

Mahler: Adagietto from Symphony No.5 in C sharp minor

モーツァルト：交響曲 第35番 ニ長調 K.385

〈ハフナー〉

Mozart: Symphony No.35 in D major, K.385 "Haffner"

オーケストラ出演者

(各パート五十音順)

ヴァイオリン

フェデリコ・アゴ스티ーニ

大宮臨太郎 佐份利恭子 島田真千子

瀬川祥子 竹澤恭子 田中直子

豊嶋泰嗣 猶井悠樹 中島慎子

中村静香 西野ゆか 三上 亮

ヴィオラ

大島 亮 川崎雅夫 川本嘉子

千原正裕

チェロ

荒 庸子 上村 昇 辻本 玲 原田禎夫

コントラバス

池松 宏 助川 龍

フルート

神田勇哉 難波 薫

オーボエ

荒 絵理子 南方総子

クラリネット

中 秀仁 山本正治

ファゴット

鹿野智子 皆神陽太

ホルン

井上 華 今井仁志

トランペット

服部孝也 若林万里子

ティンパニ

望月岳彦

ハープ

吉野直子

ステージマネージャー 佐藤昌樹

【曲目解説】

白石美雪（音楽学）

100年に1度とも言われるパンデミックのなか、昨年、創立30周年を祝った水戸室内管弦楽団が新たなシーズンを迎えた。海外を拠点とする日本人演奏家や外国人をメンバーに含む楽団ならではの苦労もあったはずだが、5月初旬には管楽器奏者を含めた出演者もかたまり、6月のコンサートを待つばかりとなった。

今回は指揮者なしのプログラムである。これまでにも同様のかたちで実力を磨いてきた水戸室内管ならでは、堂に入った演奏が聴けるのはまちがいない。選ばれた曲目はいずれも明るさと爽快感があって、暖かい情感をたたえた音楽である。ホールに足を運ぶ機会が少なくなり、コロナ禍で胸がふさがれている人たちに、ひと時の楽しさと安らぎを、という想いが伝わってくる。ちょうど10年前、東日本大震災の折に水戸芸術館が避難場所となり、その後、水戸室内管のメンバーが被災した地域の人たちに音楽を届けたように、今日のコンサートを聴いてみんなが元気を取り戻し、顔をまっすぐ上げて前へ進んでいくことこそ、演奏家をはじめ、このコンサートに携わる人たちの願いなのだろう。

エルガー：序奏とアレグロ 作品47

ヴィクトリア朝からエドワード朝へと、大英帝国の盛期を生きたエドワード・エルガー（1857-1934）は、パーセル以来、あまり作曲家に恵まれなかったイギリスにあって、近代音楽の代名詞ともいえる存在だ。彼の音楽は典型的な「イギリス風」である。健康的な明るさを持ち、節度のあふれる情感をたたえ、高貴で知的にコントロールされている。

楽器商でピアノ調律師の息子として生まれたエルガーは幼いころから身の回りに楽器や楽譜があって、店の向いにあった教会ではコンサートがよく行われていたという。音楽の道を考えるようになったのはごく自然の成り行きだった。経済的な理由から法律事務所で働き始めたものの、独学でいくつもの楽器を学び、創作にも取り組んでいく。苦節を乗り越えて、ようやく作曲家として名声を獲得したのは42歳。1899年に〈エニグマ変奏曲〉が成功をおさめた時だった。

1904年から5年にかけて書き上げられた〈序奏とアレグロ〉は、ちょうど設立されたばかりのロンドン交響楽団のために作曲された。弦楽四重奏と弦楽合奏のための作品で、ときにバロック時代のコンチェルト・グロッソ風に両者が主役を交代し、弦合奏はコントラバスを除く4つのパートを2分割して記譜している。モデラートの序奏はト短調の、いくらか悲劇的な響き

をもつ楽想でドラマチックに始まる。これがやがてアレグロ主部の第2主題となり、続いて弦楽四重奏が最初に奏でる楽想が主部の第1主題となっている。チェロが弾く素朴なメロディは1901年の夏に訪れた西ウェールズで遠くからきこえてきた民謡から引用されたもの。ほのぼのとした郷愁が漂う。アレグロ主部は2つの主題をもつソナタ形式。展開部の代わりに輝かしく大掛かりなフーガが置かれている。やがて第1主題と転調した第2主題の再現となり、最後は導入部の抒情的な楽想が回想され、軽快に締めくくられる。短くも多彩な要素が凝縮されたこの作品はまさにエルガーの最盛期の一作であり、自信作だったと伝えられている。

ボイエルデュー： ハープ協奏曲 ハ長調 作品77

シンプルで軽妙な音楽を書いたことから、「フランスのモーツァルト」とも呼ばれるフランソワ・アドリアン・ボイエルデュー（1775-1834）は、ウォルター・スコットの小説に基づく代表作〈白衣の婦人〉など、とくにオペラで実力を発揮した作曲家である。最初、数々の自作のピアノ曲によって、ピアニストとしての実力が認められたのち、十代で作曲した第1作のオペラ〈罪ある娘〉が成功を収めると、それからは毎年のように新作を発表している。

オペラの成功をきっかけに、1796年、

故郷のルーアンからパリへと移り住んだころ、ボイエルデューはピアノとハープの研究者で製造家、のちにハープのダブル・アクションを発明したセバスチャン・エラルルの知己を得て、エラルル家で知り合った音楽家たちと親交を結んでいる。1800年前後からハープのための曲に取り組んだのは、エラルルのもとでこの楽器に親しんだことがきっかけだったのだろう。ただし、新たな機構をもったエラルルのハープが誕生するのは、それから10年ほど後のことになる。

25歳のころに作曲された〈ハープ協奏曲〉は優美なメロディに恵まれた1曲で、このジャンルの傑作として知られている。第1楽章アレグロ・ブリランテは協奏的ソナタ形式。オーケストラによる祝祭的な雰囲気が始まり、優しく流れるような旋律が続く。モーツァルトの音楽を彷彿とさせる楽想だ。これらの主題を受けて、独奏ハープが登場。トリルやグリッサンドなどの装飾を伴って主題がブリリアントに奏でられていく。短調への転調も交えた展開部でもハープが主導的な役割を果たし、技巧的パッセージが繰り広げられる。アンダンテ・レント（版によってはラルゴ）と記された第2楽章は哀感に満ちた短調で、カンタービレな楽想が奏でられる。まるでハープの奏でるアリアのよう。テンポが速くなるころからが、切れ目なく演奏される第3楽章アレグロ・アジタートである。ロンド形式で、哀感をたたえた音調の主部

と晴れやかな楽想によるエピソードで構成される。2度のハーブのカデンツァには超絶技巧が凝らされ、吉野直子さんの妙技に心奪われることだろう。

マーラー：アダージェット

（交響曲 第5番 嬰ハ短調 より 第4楽章）

グスタフ・マーラー（1860-1911）はよく知られているとおり、死の床で憧れに満ちて「モーツァルト！」と呟いた。マーラーというと、彼の交響曲の孕む壮大なドラマ、つまり、長い時間をかけてさまよっていく音楽の変転を想起する人が多いだろう。まるで深層心理を映し出すかのような複雑繊細な展開。数多くの要素が混在し、黄昏時の残照のような世界に浸りつつもそこには安住できず、幻のごとくはかない、かりそめの休息から再び放浪が始まるという交響曲は、マーラー自身の人生を暗示するかのようだ。しかし、命が尽きようとしていたとき、「モーツァルト！」と呟いたことばは、至純な美しい世界への想いがマーラーの核心にあったことを感じさせる。

〈交響曲第5番〉第4楽章の〈アダージェット〉はこの世のものとは思えない、はかなくも美しい音楽である。ハーブと弦楽器のみで奏でられていく静かで安らかな楽想は、彼の交響曲のあらゆる楽章のなかで最もシンプルで穏やかだ。イタリアの映画監督ルキノ・ヴィスコンティが『ベニス

に死す』で使って有名になったことから死の香りや退廃的な雰囲気と結びついてしまったが、もともとマーラーによるアルマへのラブ・レターでもあった。指揮者ウィレム・メンゲルベルクがスコアに書き込んだように、マーラーとアルマは手紙の代わりに手書きの楽譜で想いを伝えあった。「彼女（アルマ）は理解して、あなたがやってくるのは運命です!!! という返事を書いたのである。二人はどちらも私にこのことを話してくれたのだ!」。私たちはうっとり耳を傾けているうちに、いつのまにか二人の至上の愛の世界へと誘われていくのである。

ハーブの伴奏にのせて、ゆったりとしたテンポで第一ヴァイオリンが切なく憧憬にあふれる旋律を歌っていく。やがて対位的に楽想が厚く重ねられ、後期ロマン派らしい豊饒な音楽となる。中間部ではハーブの音がやみ、ワーグナーの〈トリストタンとイゾルデ〉の第1幕への前奏曲で使われた「まなざしの動機」が第1ヴァイオリンに何度もあらわれる。再びハーブの伴奏音型が表れると第1部が再現され、どこまでも濃密な音楽のまま、終結する。

モーツァルト：
交響曲 第35番 ニ長調 K.385
〈ハフナー〉

今日、最後を飾るのは〈ハフナー〉の名で親しまれている交響曲第35番である。ハフナーはザルツブルクの裕福な貴族の名前。父レオポルトが親しくしていた一家で、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)はすでに1776年、ハフナーの娘エリーザベトの結婚式で演奏するために〈ハフナー・セレナード〉を書いていた。さらに82年になって、〈第二ハフナー・セレナード〉とも呼ばれる6楽章のセレナードが作曲される。これはハフナー家の息子ジークムント・ハフナーII世の爵位授与式の祝典音楽として、レオポルトから強く頼まれて、忙しい中、時間を作り出しては少しずつ書き上げた作品だった。翌83年になって、ウィーンのブルク劇場で予約演奏会を催すことになり、モーツァルトは新しい交響曲が必要となった。そこで、彼はふっと思い出してこの楽譜を父親に送ってもらい、6楽章からメヌエットを1曲と行進曲を取り除いて、第1楽章と第4楽章にフルートとクラリネットのパートを補筆した形で、新しい交響曲として発表したのである。

83年3月23日に行われた予約演奏会では、まず、この交響曲が幕開けを飾った。そして、演奏会の最後もこの交響曲の第4楽章で締めくくられている。このとき、最

初に演奏されたのが第3楽章までだったのか、それとも全楽章だったのかは、じつは研究者の間でも意見がわかれている。いずれにしても、華やいた雰囲気にも包まれたこのフィナーレはコンサートの幕切れにふさわしい。ウィーンでの順調な滑り出しを裏付けるかのように、このコンサートは大成功をおさめた。

第1楽章アレグロ・コン・スピリットは祝典的で輝かしい音楽。工夫を凝らした構成で、ソナタ形式の枠組の随所にカノン風の楽想を織り込んでいる。さらに、実質的には第2主題をもたず、第1主題の変奏によって呈示部を書いているのは、ハイドンを範例にしたものらしい。つまり、モーツァルトがバッハとハイドンの作品を研究した成果がみごとに生かされているのである。第2楽章アンダンテもソナタ形式。貴族の館を思わせる優美な楽想に満ちている。第3楽章はウィーン風のメヌエット。第4楽章プレストはロンド・ソナタ形式のフィナーレ。初演したばかりのオペラ〈後宮からの誘拐〉のオスミンのアリアから引用された第1主題はほとんどなくトルコ風の趣きを感じさせる。疾走するように奏でられ、力強いコーダで結ばれる。



©Akira Muto

吉野直子 (ハープ)

Naoko Yoshino, Harp

ロンドン生まれ。6歳よりロサンゼルスにて、スーザン・マクドナルド女史のもとでハープを学び始めた。1985年第9回イスラエル国際ハープ・コンクールに参加者中最年少の17歳で優勝。

これまでに、世界各地でソロ・リサイタルを行うとともに、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、小澤征爾、メータ、クレームル、パユなど、国内外の主要オーケストラ、指揮者、ソリストと数多く共演を重ねている。また、ハープの新作にも意欲的に取り組み、武満徹「そして、それが風であることを知った」、細川俊夫「ハープ協奏曲」など初演した作品は数多い。

CD録音も活発に行っており、2016年からは自主レーベルのグラツィオーソ(grazioso)による新たな録音プロジェクトを開始。毎年切り口を変えた「ハープ・リサイタル」シリーズをリリースし、いずれも非常に高い評価を受けている。最新盤は「ハープ・リサイタル6～トゥルニエ・ルニエ・カプレ・カゼッラ・サルツェード・フォーレ」。

国際基督教大学卒業。

Violin



フェデリコ・アゴ스티ーニ
Federico Agostini



大宮臨太郎
Rintaro Omiya



佐份利恭子
Kyoko Saburi



島田真千子
Machiko Shimada



瀬川祥子
Sachiko Segawa



竹澤恭子
Kyoko Takezawa



田中直子
Naoko Tanaka



豊嶋泰嗣
Yasushi Toyoshima



猶井悠樹
Yuki Naoi



中島慎子
Chicaco Nakajima



中村静香
Shizuka Nakamura



西野ゆか
Yuka Nishino

Viola



三上 亮
Ryo Mikami



大島 亮
Ryo Oshima



川崎雅夫
Masao Kawasaki



川本嘉子
Yoshiko Kawamoto

Viola



千原正裕
Masahiro Chihara

Violoncello



荒庸子
Yoko Ara



上村昇
Noboru Kamimura



辻本玲
Rei Tsujimoto

Double-bass



原田禎夫
Sadao Harada



池松 宏
Hiroshi Ikematsu



助川 龍
Ryu Sukegawa



Flute

神田勇哉
Yuya Kanda

Oboe



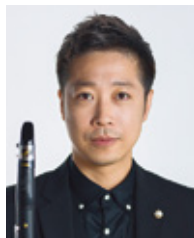
難波 薫
Kaoru Namba



荒 絵理子
Eriko Ara



南方総子
Fusako Nampo



Clarinet

中 秀仁
Hidehito Naka

Bassoon



山本正治
Masaharu Yamamoto



鹿野智子
Tomoko Kano



皆神陽太
Yota Minakami

Horn



井上 華
Hana Inoue

Horn



今井仁志
Hitoshi Imai

Trumpet



服部孝也
Takaya Hattori

Timpani

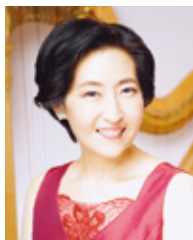


若林万里子
Mariko Wakabayashi



望月岳彦
Takehiko Mochizuki

Harp



吉野直子
Naoko Yoshino

Stage manager



佐藤昌樹
Masaki Sato



水戸室内管弦楽団

Mito Chamber Orchestra

水戸室内管弦楽団（以下MCO）は1990年、水戸芸術館の専属楽団として、初代館長・吉田秀和の提唱により誕生した。日本を代表する指揮者である小澤征爾が、2013年水戸芸術館の館長に就任すると同時にMCOの総監督となり、その運営にあたっている。メンバーは、ソリストとして、またオーケストラの首席奏者として、世界的な活躍を続ける17名の日本人音楽家および5名の外国人音楽家たち。水戸芸術館コンサートホールATMで開催される定期演奏会は、小澤征爾をはじめ指揮者を迎える演奏会とともに、指揮者を置かないアンサンブルによる演奏会にも力を入れている。音楽家たちは、演奏会の度に、世界各地から水戸芸術館に集まり、集中的にリハーサルを行う。

日本人作曲家への委嘱も積極的に行っており、一柳慧〈汽水域〉、林光〈悲歌〉（95年度尾高賞受賞）、平義久〈彩雲〉などの作品が初演されている。また、ソニークラシカル、ユニバーサル・ミュージックなどからCD19枚、NHKエンタープライズなどからブルーレイ/DVD3枚が発売されており、いずれも高い評価を受けている。

1996年からMCOは活動の舞台を水戸以外に広げ、東京・サントリーホールや大阪・フェスティバルホールなど日本各地で演奏会を行っている。98年、2001年には小澤征爾の指揮でヨーロッパ公演を行い、世界有数の室内管弦楽団との評価を確立した。08年6月の第3回ヨーロッパ公演は、指揮者なしで実施。ミュンヘン、フィレンツェ、マドリードの3都市で公演を行い、その実力を絶賛された。

児玉桃&小澤征爾&MCO 新譜CDのお知らせ



UCCE-2094(ユニバーサルミュージック)

パリを拠点に国際的な活躍を続ける児玉桃さん(ピアノ)と、小澤征爾総監督&水戸室内管弦楽団(MCO)が共演した2006年12月の第67回定期演奏会のプログラムの一部が新譜CDとして3月にリリースされました。曲目は細川俊夫さんの〈月夜の蓮〉とモーツァルトの〈ピアノ協奏曲第23番〉。「モーツァルトへのオマージュ」という副題を持つ〈月夜の蓮〉は、細川さんがこのピアノ協奏曲の第2楽章の美しさに靈感を得て作曲したものです。当盤は国内のみならず世界でも発売され、古典と現代とを結ぶカップリングが望み得る最高の演奏で実現している注目盤として、英タイムズ紙や南ドイツ新聞など海外のメディアでも紹介されています。

高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる オンライン・レッスン

コロナ禍で様々な音楽活動が制約を受けるなか、これまでMCOが学生向けに実施してきた「公開セミナー」も、昨年度は残念ながら非公開での開催、オンラインでのレッスンとなりました。3月6日に実施した弦楽合奏のレッスンを受講したのは、土浦第一高校弦楽部26名(午前)と並木中等教育学校弦楽アンサンブル部17名(午後)の生徒たち。講師は中村静香さん(ヴァイオリン)、店村眞積さん(ヴィオラ)、堀了介さん(チェロ)でした。水戸芸術館と学校を結んでの遠隔レッスンは初めての試みで、生徒たちは最初は戸惑い気味でしたが、生徒から講師への質問が出始めると

活発な応答も。感染拡大防止で学校外の講師の指導が十分に受けられない昨今、こうしたレッスンと質疑応答が、日頃の部活動での練習の戸惑いを解決する大切な機会になったことと思います。



水戸室内管弦楽団

総監督	ヴァイオリン	オーボエ
小澤征爾	安芸晶子 *	フィリップ・トーンデュル *
	小栗まち絵	
創立名誉総監督	川崎洋介	クラリネット
吉田秀和	佐份利恭子	リカルド・モラレス
	島田真千子	
名誉顧問	竹澤恭子	ファゴット
小口達夫	田中直子 *	ダーク・イェンセン
	豊嶋泰嗣 *	
楽団長	中村静香	ホルン
堀 伝		猶井正幸 *
	ヴィオラ	ラデク・バボラーク
楽団員代表	モーリン・ガラガー	
猶井正幸	川崎雅夫	ステージマネージャー
	川本嘉子	佐藤昌樹
パーソネルマネージャー	店村眞積 *	
志賀佳子		
	チェロ	
名誉楽団員	上村昇	
工藤重典	原田禎夫 *	
水野信行	宮田大	
宮本文昭		
	コントラバス	
メモリアルメンバー	池松宏	
潮田益子		
江戸純子		
ローランド・アルトマン		* 運営委員

事務局スタッフ

大津良夫(常務理事)

中村晃(音楽部門芸術監督) 関根哲也(音楽部門主任学芸員) 高巢真樹(音楽部門学芸員)

篠田大基(音楽部門学芸員) 鴻巣俊博(音楽部門学芸員) 高木春佳(音楽部門スタッフ)

松田陽(アドバイザリースタッフ)



シュベルト/マーラー編:
死と乙女
マーラー:交響曲 第5番より
アダージェット
ハーブ/吉野直子
SRCR9502



ラヴェル: マ・メール・ロフ
(全曲版)
指揮/小澤征爾
UCCD4798



ショスタコーヴィチ:
アイネ・クライネ・シンフォニー/
室内交響曲 他
指揮/ルドルフ・バルシャイ
SRCR1675



クープランの墓
ブルチネラ組曲
指揮/小澤征爾
UCCD4799



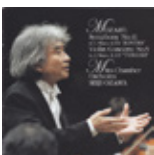
リハルト・シュトラウス:
オーボエ協奏曲 二長調 他
指揮/小澤征爾
SICC319



モーツァルト・シリーズ 1
モーツァルト:交響曲第40番
& 協奏交響曲K.Anh.9(297B)
(レヴィン復元版)
指揮/小澤征爾
SICC10046



モーツァルト・シリーズ 2
モーツァルト: 交響曲第36番
(リンツ) & 第38番(プラハ)
指揮/小澤征爾
SICC10047



モーツァルト・シリーズ 3
モーツァルト:交響曲第41番
& ヴァイオリン協奏曲第5番
指揮/小澤征爾
ヴァイオリン/潮田益子
SICC10069



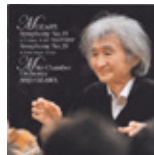
メンデルスゾーン:
ピアノ協奏曲第1番 他
指揮/小澤征爾
ピアノ/小菅優
SICC 10084



ベートーヴェン:
交響曲 第4番 & 第7番
指揮/小澤征爾
UCCD-1413



ベートーヴェン:交響曲
第2番 & 第8番
指揮/小澤征爾
UCCD-1421



モーツァルト・シリーズ 4
モーツァルト:
交響曲第35番
「ハフナー」& 第39番
指揮/小澤征爾
SICC-19001



モーツァルト・シリーズ 5
モーツァルト:
ホルン協奏曲全集
指揮/小澤征爾
ホルン/ラデク・パボラーク
SICC 19002



ベートーヴェン:
交響曲 第5番(運命)
モーツァルト:
クラリネット協奏曲
指揮/小澤征爾
クラリネット/リカルド・モラレス
UCCD-1433



シモン・ゴールドベルク・
ラスト・コンサート
指揮/
シモン・ゴールドベルク
フルート/工藤重典
TBRCD0048/0049-2



ベートーヴェン:
ピアノ協奏曲 第1番、
交響曲 第1番
指揮/小澤征爾
ピアノ/マルタ・アルゲリッチ
UCCD-1452



ベートーヴェン：
交響曲 第9番 二短調 作品125
指揮／小澤征爾
独唱／三宅理恵(ソプラノ)
藤村実穂子(メゾソプラノ)
福井 敬(テノール)
マルクス・アイヒェ(バリトン)
合唱／東京オペラシンガーズ
UCCD-1468



ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第2番
指揮／小澤征爾
ピアノ／マルタ・アルゲリッチ
ベートーヴェン：
ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19
モーツァルト：ディヴェルティメント 二長調
K.136 から第1楽章
グリーグ：
組曲〈ホルベアの時代から〉 作品40
ユニヴァーサル UCCD 40017



細川俊夫：
月夜の運 —モーツァルトへのオマージュ—
モーツァルト：ピアノ協奏曲 第23番
指揮／小澤征爾 ピアノ／児玉 桃
UCCE-2094

DVD・BD



メンデルスゾーン・プログラム
小澤征爾 小菅優
メンデルスゾーン：
ピアノ協奏曲 第1番 ト短調 作品25
メンデルスゾーン：〈夏の夜の夢〉
序曲 作品21と劇中音楽 作品61
指揮／小澤征爾
ピアノ／小菅優
NSBS 13874
(BD) / NSDS 13873 (DVD)



小澤征爾指揮
水戸室内管弦楽団 2012
～チェロ独奏 宮田大～
ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 八長調
Hob.VIIb-1
モーツァルト：交響曲 第35番 二長調
K.385(ハフナー)ほか
指揮／小澤征爾 チェロ／宮田大
NSBS 17531
(BD) / NSDS-17530 (DVD)



第19回別府アルゲリッチ音楽祭ライブ
DVD
ベートーヴェン：
ピアノ協奏曲 第1番 八長調 作品15
スカルラッティ：ソナタ 二短調 L422
モーツァルト：
ディヴェルティメント K.136より
第19回別府アルゲリッチ音楽祭
ダイジェスト映像
指揮／小澤征爾
ピアノ／マルタ・アルゲリッチ
AMP-1802

書籍



MCO'98
ヨーロッパ・ツアー・ドキュメンタリー
『小澤征爾＝水戸室内管弦楽団／奇跡のオーケストラ ヨーロッパに行く』
音楽之友社 刊



MCO12年の歩みを振り返る
『吉田秀和・小澤征爾 理想の室内オーケストラとは—水戸室内管弦楽団での実験と成し—』
構成・編 諸石幸生
音楽之友社 刊



水戸室内管弦楽団と巡る
『ヨーロッパ音楽紀行』
水戸芸術館音楽部門 編
大窪道治 写真
音楽之友社 刊

商品化が切望されていた2006年の公演ライブ。
小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団初のECM盤!

好評
発売中



細川俊夫：
月夜の蓮 -モーツァルトへのオマージュ-
モーツァルト：
ピアノ協奏曲 第23番

児玉桃 小澤征爾

- ① 細川俊夫：月夜の蓮 -モーツァルトへのオマージュ-
- ② モーツァルト：ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

児玉桃(ピアノ)、水戸室内管弦楽団 指揮：小澤征爾
録音：2006年12月 水戸芸術館 コンサートホール ATM

【国内盤のみSHM-CD】

モーツァルトの「ピアノ協奏曲第23番」と、同曲へのオマージュとして2006年に作曲され、この公演が日本初演となった細川俊夫の「月夜の蓮 -モーツァルトへのオマージュ-」を収録。透き通ったピアノの響きと、本作がECM初登場となる小澤征爾の指揮による水戸室内管弦楽団の瑞々しい演奏が鮮やかな印象を残す、注目の作品です。

SHM-CD:UCCE-2094
定価¥3,080(本体¥2,800 税率10%)

ECM NEW SERIES



発売：ユニバーサル ミュージック



BSCD2
Blu-spec CD2

小澤征爾と世界のオーケストラ

10タイトル
好評発売中

●定価：¥1,250+税 ●高品質CD:Blu-spec CD2仕様

Sony Music Japan International



- ① モーツァルト：交響曲第28番&第35番「ハフナー」 ニュー・フィルハーモニア管弦楽団 SIC-30519
- ② ムソルグスキー(ラヴェル編)：組曲「展覧会の絵」/ブリテン：青少年のための管弦楽入門 / ストラヴィンスキー：組曲「火の鳥」(1919年版) シカゴ交響楽団 / ボストン交響楽団 SIC-30520
- ③ ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番 / アイヴズ：宵閑のセントラルパーク アンドレ・ワッツ(ピアノ) / 小澤征爾(指揮) / 小澤征爾、モリス・ペレス(指揮) / ニューヨーク・フィルハーモニック SIC-30521
- ④ メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 シューマン：ピアノ協奏曲 他 エリック・フリードマン(ヴァイオリン) / レナード・パナリオ(ピアノ) / ロンドン交響楽団 SIC-30522
- ⑤ チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲&ピアノ協奏曲第1番 エリック・フリードマン(ヴァイオリン) / ジョン・ブラウニング(ピアノ) / ロンドン交響楽団 SIC-30523
- ⑥ ベルリオーズ：レウイエム ヴァインソン・コール(テノール) / ボストン交響楽団 / タングルウッド音楽祭合唱団 SIC-30524
- ⑦ ベルリオーズ：夏の夜 / ドビュッシー：選ばれた少女 フレデリカ・フォン・シュターデ(メゾ・ソプラノ) / ボストン交響楽団 / タングルウッド音楽祭合唱団 / スザンヌ・メンツァー(語り) SIC-30525
- ⑧ フォーレ：レウイエム&歌曲集 バーバラ・ボニー(ソプラノ) / ホーナー・ハーゲル(リトーン) / タングルウッド音楽祭合唱団 小澤征爾(指揮) / ボストン交響楽団 / ウォーレン・ジョーンズ(ピアノ) SIC-30526
- ⑨ ラヴェル：歌曲集「シェヘラザード」他 フレデリカ・フォン・シュターデ(メゾ・ソプラノ) / ボストン交響楽団 SIC-30527
- ⑩ オルブ：カルミナ・ブрана イブリン・マンダック(ソプラノ) / スタンリー・ヨーク(テノール) / ユーリル・ミルズ(リトーン) / ボストン交響楽団 / ニュー・イングランド音楽院合唱団&児童合唱団 SIC-30528



あたたかい空へ。
あたらしい空へ。

国内線のお問合せ

☎ 0570-029-222 (全国一律料金)

国際線のお問合せ

☎ 0570-029-333 (全国一律料金)

www.ana.co.jp

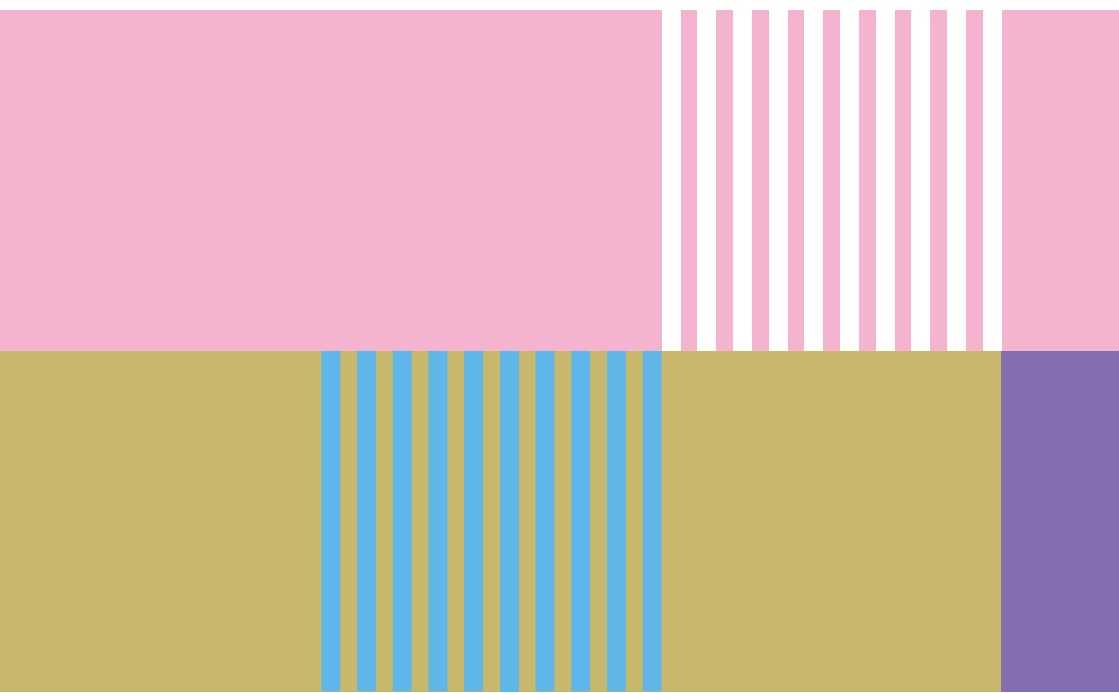
ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 



——ふれあいとゆとりある
地域づくりに貢献します——
(公財)げんでん ふれあい茨城財団





水戸芸術館
ART TOWER MITO

